高等学校日语教材

# 日本文章选读与读解

下册

杨洪鉴◎编

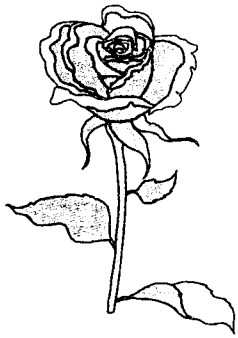
大连理工大学出版社
DALIAN UNIVERSITY OF TECHNOLOGY PRESS

高等学校日语教材

# 日本文章选读与读解

（下　　册）

杨洪鉴　编



大连理工大学出版社

© 杨洪鉴 2002

**图书在版编目(CIP)数据**

日本文章选读与读解(下册) / 杨洪鉴编 .— 大连 : 大连理工大学出版社, 2002.10
(高等学校日语教材)
ISBN 7-5611-2173-3

Ⅰ. 日… Ⅱ. 杨… Ⅲ. 日语-语言读物,文学-高等学校-教材 Ⅳ. H369.4:I

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2002)第 031358 号

大连理工大学出版社出版
地址:大连市凌水河 邮政编码:116024
电话:0411-4708842 传真:0411-4701466 邮购:0411-4707955
E-mail:dutp@mail.dlptt.ln.cn URL:http://www.dutp.com.cn
大连理工印刷有限公司印刷 大连理工大学出版社发行

幅面尺寸:140mm×203mm 印张:14.625 字数:365 千字
印数:1 ~3 000
2002 年 10 月第 1 版 2002 年 10 月第 1 次印刷

责任编辑:宋锦绣 责任校对:山冈阳子 村田尚子
封面设计:孙宝福

定 价:42.00 元(上下册)

# 前 言

本书是大专院校日语专业高年级用的日本文学作品读解教材，也可供具有相应程度的日语学习者使用。

一般文学选读教材很难编出作为教材的特色，纵观迄今为止出版的一些文学选读教材，其结构几乎都相对统一成“原作”、“作者简介”、“关键词语解释”、“学习指导”、“阅读附文”等基本格局。与此相比，本书在保持前述几项内容以外，还具备以下几个特点：

1. 设立“基本问题”部分。这是一个针对原文中词语用法而编排的指导性词语习题版块。它可以加深学生对词语的理解和记忆，提高学生的词语应用能力。

2. 设立“评价问题”部分。该部分将原文分成几大块。每块都设立综合读解练习，包括选词、填词、选意、归纳等，涉及词语、句子、段意、修辞、文章主题等方面，学生通过这一版块的学习，可以加深对原文的理解，了解自己驾驭原文的能力程度，加快对日语表达方式的习得，促进日语思维方式的养成。这是文章读解的关键，它构成本书不同于以往的教材的核心特征。

3. 因所选作品而异，设立“原文大意”或“中心思想”或“原文表现特征”或“读解指导”或“相关知识”或“相关文章”等辅助版块，之所以采用“因文而异”的版块设立形式，其目的是想打破传统的固定模式，保持一种活泼多变的风格。本书所涉及的知识已经很深，如果采用传统的固定模式，势必造成“一日三餐”的单调感觉。按部就班固然便于“闭目操作”，但于教于学都可能会有损教学双方的“激情”。“因文而异”，设立不同的附录版块，旨在指导而非刻意强求。不同的内容形式可以给学习者提供尽可能多的信息。

本书作品选自日本的一些高中国语教材、教师参考书、习题集以及一些日本文学作品读解文集。在材料的收集、选编方面承蒙堀内公平先生大力支持，在编写和校对方面承蒙纳米先生悉心指导，谨在此表示由衷的感谢。由于编者水平有限，时间仓促，书中的错漏和不妥之处在所难免，热切期望诸位先生及广大读者不吝赐教。

编　　者

2002 年 10 月于宁波





此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

# 目　次


第一課　子供たちの夜 …… 向田邦子
原文 …… 1
作者紹介 …… 5
語句の解釈 …… 5
問題文 …… 7
基本問題 …… 12
標準問題 …… 13
学習指導の要点 …… 16
参考資料：子供たちの夜（省略の部分から） …… 17
第二課　三隅の桜 …… 水上勉
原文 …… 19
作者紹介 …… 23
語句の解釈 …… 24
問題文 …… 25
基本問題 …… 30
標準問題 …… 31
学習指導の要点・要旨 …… 34
参考資料：稲魂を誉める呪術（岡本健一） …… 35
第三課　手作りの幻想 …… 川田順造
原文 …… 39
作者紹介 …… 44
語句の解釈 …… 44
問題文 …… 47

基本問題 …… 52
標準問題 …… 53
原文大意 …… 55
参考資料:雑器の美 …… 57
第四課　辛夷の花 …… 堀辰雄
原文 …… 59
作者紹介 …… 63
語句の解釈 …… 63
問題文 …… 65
基本問題 …… 70
標準問題 …… 71
原文大意 …… 75
参考資料:樹下 …… 76
第五課　山に行く心 …… 古井由吉
原文 …… 77
作者紹介 …… 82
語句の解釈 …… 83
問題文 …… 84
基本問題 …… 89
標準問題 …… 90
原文大意・要旨 …… 93
参考資料:もう一つの怖さ(吉田由吉) …… 94
第六課　科学と現実 …… 伊東俊太郎
原文 …… 96
作者紹介 …… 102
語句の解釈 …… 102
問題文 …… 105
基本問題 …… 111

標準問題 …… 112
表現 …… 115
参考資料:地球の危機と文明の転機 …… 116

第七課　チェルノブイリ報告
—ナターシャの死、母の叫び——
…… 広河隆一
原文 …… 118
作者紹介 …… 123
語句の解釈 …… 123
問題文 …… 124
基本問題 …… 129
標準問題 …… 130
原文大意・要旨 …… 132

第八課　若い詩人の肖像 …… 伊藤整
原文 …… 134
作者紹介 …… 141
語句の解釈 …… 141
問題文 …… 143
基本問題 …… 150
標準問題 …… 151
表現 …… 156
原文大意・主題 …… 157

第九課　道具と文化 …… 河合雅雄
原文 …… 159
作者紹介 …… 166
語句の解釈 …… 166
問題文 …… 169

基本問題 …… 176
標準問題 …… 177
原文大意 …… 183
参考資料:ヒトは森の中で始まった…… 185
第十課　日本文化の雑種性 …… 加藤周一
原文 …… 186
作者紹介 …… 194
語句の解釈 …… 195
問題文 …… 198
基本問題 …… 207
標準問題 …… 208
要旨 …… 214
第十一課　言葉と身体…… 前田愛
原文 …… 215
作者紹介 …… 221
語句の解釈 …… 221
問題文 …… 223
基本問題 …… 230
標準問題 …… 231
要旨 …… 234
参考資料:無題 …… 235
第十二課　日本詩歌の鑑賞
Ⅰ群集の中を求めて歩く …… 萩原朔太郎　237
作者紹介 …… 238
指導法 …… 238
語句の解釈 …… 239
基本問題 …… 240
標準問題 …… 241
作品鑑賞 …… 242

参考資料 …… 246
**Ⅱ わたしが一番きれいだったとき**
…… 茨木のり子　247
作者紹介 …… 248
指導法 …… 248
語句の解釈 …… 249
基本問題 …… 249
標準問題 …… 250
作品鑑賞 …… 251
参考資料 …… 252

**集中読解Ⅰ** …… 254
例文:「ざくろ」 …… 川端康成　254
例題 …… 258
解法と解答 …… 259
**一、あすなろ物語** …… 井上靖　262
作者紹介/出典解説/語句・表現技法の解説 …… 264
読解問題 …… 265
題について …… 266
**二、光抱く友よ** …… 高樹のぶ子　267
作者紹介/出典解説/語句・表現技法の解説 …… 269
語句の解釈 …… 271
読解問題 …… 271
**三、赤い繭** …… 安部公房　272
作者紹介/出典解説/語句・表現技法の解説 …… 274
語句の解釈 …… 276
読解問題 …… 276

四、必殺アミタワシ …… 干刈あがた 278
作者紹介/出典解説/語句・表現技法の解説 …… 280
語句の解釈 …… 282
読解問題 …… 282
五、幻の光 …… 宮本輝 283
作者紹介/出典解説/語句・表現技法の解説 …… 285
語句の解釈 …… 287
読解問題 …… 287

集中読解Ⅱ …… 289
一、満月 …… 吉本ばなな 289
作者紹介/出典解説/語句・表現技法の解説 …… 291
読解問題 …… 293
二、貉 …… 芥川龍之介 294
作者紹介/出典解説/語句・表現技法の解説 …… 296
語句の解釈 …… 298
読解問題 …… 298
三、さんろく …… 三浦哲郎 299
作者紹介/出典解説/語句・表現技法の解説 …… 301
語句の解釈 …… 303
読解問題 …… 303
四、スウィート・バジル …… 山田詠美 304
作者紹介/出典解説/語句・表現技法の解説 …… 306
読解問題 …… 308
五、夢十夜 …… 夏目漱石 309
作者紹介/出典解説/語句・表現技法の解説 …… 312
語句の解釈 …… 313
読解問題 …… 313





此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

**集中読解Ⅲ** …… 315
一、十三夜 …… 樋口一葉 315
作者紹介/出典解説/語句・表現技法の解説 …… 318
語句の解釈 …… 319
読解問題 …… 320
二、ダンス・ダンス・ダンス …… 村上春樹 322
作者紹介/出典解説/語句・表現技法の解説 …… 324
語句の解釈 …… 326
読解問題 …… 326
三、舞姫 …… 森鷗外 327
作者紹介/出典解説/語句・表現技法の解説 …… 330
語句の解釈 …… 332
読解問題 …… 332
文語文法の応用:陳述副詞 …… 333
四、黄金伝説 …… 石川淳 335
作者紹介/出典解説/語句・表現技法の解説 …… 337
語句の解釈 …… 339
読解問題 …… 339
設問解法 …… 340
五、城のある町にて …… 梶井基次郎 341
作者紹介/出典解説/語句・表現技法の解説 …… 343
語句の解釈 …… 345
読解問題 …… 345
設問解法 …… 346

**集中読解Ⅳ** …… 348
一、鳴海仙吉 …… 伊藤整 348
作者紹介/出典解説/語句・表現技法の解説 …… 350

語句の解釈 …… 352
読解問題 …… 352
二、忘れえぬ人々 …… 国木田独歩 354
作者紹介/出典解説/語句・表現技法の解説 …… 357
語句の解釈 …… 359
読解問題 …… 359
三、秀吉と利休 …… 野上弥生子 361
作者紹介/出典解説/語句・表現技法の解説 …… 363
語句の解釈 …… 365
読解問題 …… 365
四、東京八景 …… 太宰治 368
作者紹介/出典解説/語句・表現技法の解説 …… 371
読解問題 …… 372
五、美しい村 …… 堀辰雄 375
作者紹介/出典解説/語句・表現技法の解説 …… 378
語句の解釈 …… 380
読解問題 …… 380

集中読解Ⅴ …… 383
一、悟浄歎異 …… 中島敦 383
作者紹介/出典解説/語句・表現技法の解説 …… 386
語句の解釈 …… 387
読解問題 …… 388
主要作品解説 …… 389
二、大津順吉 …… 志賀直哉 390
作者紹介/出典解説/語句・表現技法の解説 …… 393
語句の解釈 …… 394
読解問題 …… 395

主要作品解説 …… 396
三、おとうと …… 幸田文 397
作者紹介/出典解説/語句・表現技法の解説 …… 400
語句の解釈 …… 402
読解問題 …… 402
設問解釈 …… 405
四、留学 …… 遠藤周作 406
作者紹介/出典解説/語句・表現技法の解説 …… 409
語句の解釈 …… 411
読解問題 …… 411
五、金閣寺 …… 三島由紀夫 413
作者紹介/出典解説/語句・表現技法の解説 …… 418
語句の解釈 …… 420
読解問題 …… 420
主要作品解説 …… 422
参考資料：モデル小説 …… 423

下冊解答 …… 424

# 第一課　子供たちの夜

向田邦子

つい先立ってのことだが、キリスト教関係の出版物を出しているところから電話があった。「愛」について短いものを書いて欲しいという依頼である。

電話を切って、私は絨毯の上に長々と寝そべった。棒だらのように長くなって愛を考えるのは不謹慎な気もしたが、夏にしては涼しい昼下がり、ゆっくりと体を伸ばしながら、私が初めて愛というものを感じたのはいつだろう、などとぼんやりしているのは、何やら神の恩寵に包まれているようで幸せな気分である。気が付いたら小一時間ほどうたた寝をしていた。

目が覚めたら、夕立でも来るのかあたりは薄暗くなっていた。昼寝の目覚めに仰ぐ我がマンションの天井はベージュ一色の壁紙でサッパリしているが気味ない。子供のころ見た天井はこうではなかった。天井には木目や節があり、暗い夜の明かりの中で、動物やお化けに見えたりした。そんなことが糸口になって、繭玉から糸を手繰り出すように子供のころの夜の情景が蘇ってきた。

子供のころはよく夜中に起こされた。

父が宴会から折り詰めを持って帰ってくるのである。末の妹はまだ乳飲み子だったから、私をかしらに姉弟三人がパジャマの上にセーターを羽織ったり綿入れのチャンチャンコを着せら

れたりして、茶の間に連れてこられる。食卓では赤い顔をした父が待ち構えていて、

「今日は保雄から先に取れ。」

と長男を立てたり、

「この前は保雄が先だったか。それじゃあ今晩は邦子がイチだ。」

と長女の私の機嫌を取ったりしながら、自分で取り皿に取り分けてくれる。宴席で手をつけなかった口取りや二の膳のものを詰めてくるのだろうが、今考えてもなかなか豪勢なものだった。

鯛の尾頭つきを真ん中にして、かまぼこ、きんとん、海老の鬼殻焼きや緑色の羊羹まで入っていた。酒臭い息は閉口だったが、日頃は怒りっぽい父が、人が変わったように優しく、

「さあお上がり。」

と世話を焼いてくれるのはうれしかったし、好きなものを一口ずつ食べられるのも悪くなかったが、なにしろ眠いのである。寝たがり屋の弟は、いつも目をつぶって口を動かしていた。祖母が父に聞こえぬような小さな声で、

「かわいそうだから寝かせた方がいいよ。」

と母に言うのだが、母は、上機嫌で調子外れの鼻唄を歌いながら子供たちの食べるのを眺めている父の方に目配せをしながら、祖母を止めていた。

ついにたまりかねたのか、弟は人一倍大きな頭をぐらりと前へのめらせて自分の取り皿を引っくり返し、さすがの父も、

「もういいから寝かせてやれ。」

ということになった。

祖母に抱き抱えられた弟は、それでも箸をしっかり握っていて、母が指を一本一本開いて取っていたのを覚えている。もっとも、眠い思いもたかが十五分か二十分のことで、食卓に肘を突

いたり、腕枕で子供たちの食べるのを眺めていた父は、酔いが回るのか雷のような大いびきで眠ってしまう。

「さあ、よし。やっとお父さんが寝た。」

と祖母と母はほっとして、これも半分眠っている子供たちをそれぞれの部屋に連れてゆき寝かせるのである。

こんな按配だから、朝になって折り詰めの残りが食卓に並んでいても、本当に昨夜食べたのかどうか半信半疑で、二番目の妹などは、よく、

「あたしは食べなかった。」

と泣いていた。

ある朝、起きたら、庭に鮨の折りが散乱していたことがあった。

例によって深夜、鮨折りの土産をぶら下げてご帰館になり、「子供たちを起こせ。」と怒鳴ったのだが、夏場でもあり、母が「疫痢にでもなったら大変ですから。」と止めたところ、

「そうか。そんなら食わせるな。」

と庭へ投げ捨てたというのである。

乾いて赤黒く変色したトロや卵焼きが芝生や庭石にこびりつき、大きな蝿がたかっていた。見せしめのためか、母は父が出勤するまで取り片づけず、父は朝刊で顔を隠すようにして、ブスッとした顔で二日酔いの薬を飲んでいた。

戦前の夜は静かだった。

家庭の娯楽といえばラジオぐらいだったから、夜が更けるとどの家もシーンとしていた。

布団に入ってからでも、母がしまい風呂を使う手桶の音や、父のいびきや祖母が仏壇の戸をきしませて開け、そっと経文を唱える気配が聞こえたものだった。裏山の風の音や、廊下を歩く





此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com